

南浦和中だより

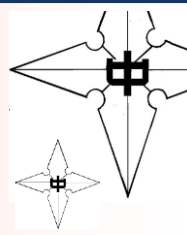
〒336-0026 さいたま市南区辻 6-1-33

TEL 048(863)0753

FAX 048(836)1589

さわやか相談室直通

TEL 048(837)5909



『ギンギラギンにさりげなく』

校長 おお こと うち のり かず 大河内 範一

私が教員になって最初の10年間のうち、9年間は生徒会を担当した。自分が小・中学生の頃から児童会や学級委員を経験していたこともあり、この仕事は比較的得意な分野だった。生徒たちからは、美術科や部活動の顧問より「生徒会の先生」というイメージが一番強かったのではないかと考えている。

当時は文化祭や三送会など、体育館に全校生徒が集まる行事が盛大に行われていた。生徒会担当にとっては腕の見せ所であり、毎年さまざまな企画や演出に知恵を絞った。そして、あの頃の行事には今以上に手作り感があふれていた。

例えば、中学校生活の思い出を振り返る「スライドショー」である。今ならパソコンや動画編集ソフトを使えば、短時間でゴージャスなものを作ることができる。しかし当時はそうはいかなかった。ビデオカメラを三脚に固定し、その前に写真を1枚ずつ置いて撮影を行う。きちんと秒数を計って撮影し、次の写真に入れ替えるという作業を延々と繰り返した。さらに、CD再生機と録音機材を何台もつなぎ合わせてBGMを編集し、最後に映像と音楽を合体させたら完成である。もしタイミングを失敗すれば、最初からやり直しになるという過酷な作業だった。

もう1つ。ある年、演劇部から「体育館の舞台でミラーボールを使いたい」という要望が出された。自分たちでは用意せずに生徒会担当にお願いするという、要するに「丸投げ戦法」である。予算の都合で本物を購入することはできなかったのも、実行委員会の生徒たちと一緒に手作りで挑戦することにした。

まず、巨大なビーチボールの表面に、細かく砕いたCDの破片を接着剤でびっしりと貼り付ける。次に、ビーチボールの上部に長い棒をくくり付け、天井からつり下げられるようにする。そして当日、舞台の天井にある通路から（謎の通路がありました…）、生徒が棒を持ち、垂れ下がったビーチボールをクルクルと回転させた。これに舞台下の左右からスポットライトを当てると、CDの破片が光を反射し、舞台いっぱいにきらめく光が広がった。ギンギラギンに輝くビーチボールが、さりげなく回るミラーボールに早変わりしたのである。（無理やりこのフレーズを入れてみた…）

生徒たちと知恵を出し合い、試行錯誤を重ねて作り上げた舞台は、予想以上の拍手と歓声を集めた。手作りだからこそ生まれる温かさや達成感がそこにあった。

あの頃の行事は、手間も時間もかかったが、それ以上に心が動く瞬間に満ちていた。便利さが当たり前になった今だからこそ、一つのものに時間をかけて作り上げる喜びは大切にしたい。生徒の皆さんにも、そんなギンギラギンにさりげない達成感を味わってほしいと願っている。（またもや無理やりこのフレーズを入れてみた…）